

甘木市秋月地区における重要伝統的建造物群保存地区の現状と問題

千 歳 壽 一*

1 伝統的建造物保存の都市政策的意義

物から心へといわれるようになってから久しい。ほぼ同じとき、環境重視へとパラダイム変換が起こり、環境対策や石油危機を契機とした省エネルギー・省廃棄物社会への施策が強力に進められるようになった。地域においても、工業化による地域開発でなく観光・文化によるまちおこしが地域の創意で芽を出し始めた。近年、伝統文化の尊重が求められ、城下町などの保存の重要性が提唱され、各地で保存・再生が行われるようになった。

城下町など歴史的町並み保存の意義は、第一に、住民にとって大きな精神的価値となることであり、第二は、外部の人の心に感動を与えることである（大河直躬 1997. p. 30.）。第三に、精神的価値のほか、歴史的遺産の活用再生の直接的効果として、地域振興、老朽建築物の維持経費の軽減、建物新設に要するエネルギー削減などが挙げられる（大河 前出. pp. 41, 42.）。

最近、住民の精神的統合のシンボルとしての伝統的建造物の保存や、それらが集まった伝統的建造物群保存地区選定による事業が盛んに行われているが、その一方で、伝統的建造物群維持の問題点も見過し得なくなっている。高齢化や経済の成熟化が、伝統的建造物の維持を困難にする要因として顕在化し始めている。

立正大学地球環境科学部地理学科の地域政策分析研究室では、平成14年度3年生のフィールドワークの地域として、福岡県甘木市の秋月地区を選んだ。秋月では広く旧城下町の主要部分を重要伝統的建造物群保存地区として、保存や整備が図られている。ここでも前述のような問題が発生する可能性が考えられるので、アンケートによる現地調査を試みることにした。本報告はそれを基にした住民の意向を示すものである。学生が短期間に行った小規模の調査ゆえ精度に問題を含むこともありうるが、今後の街づくりなどの参考資料の一つになりうると思う。ここに報告を行うものである。

2 甘木市・秋月地区の概要

(1) 甘木市の概要

1) 自然環境

福岡県のほぼ中央に位置し、東西22.5km、南北15.5kmの長方形に近い形をし、その面積は167.2km²である（図1）。北部から東部にかけて古処山を始めとして800m~900m級の山が連なり、市域の6割は山林である。また西部を北東から南西に小石原川が、中央部は同じく北東から南西に佐田川が流れ、それらによる肥沃な扇状地を基盤とした穀倉地帯となっている。

年平均気温は15.3度と比較的温暖で、年間降水量は1300mmで良質で豊かな水に恵まれている。

2) 歴史

甘木市は、昭和29（1954）年、上秋月村、秋月町、安川村、甘木町、馬田村、立石村、福田村、金川村、蜷城村、三奈木村が合併して発足した。そして、翌昭和30年高木村が編入された。

甘木市の中心部分である旧甘木町は、1000年ほど前に当地の豪族甘木氏によって建立されたと伝えられる甘木山安長寺の門前町であるとともに、肥後街道など交通の要衝として発展してきた。江戸時代には、福岡藩の飛び地であったが、経済の中心地であった。

大正時代、8（1919）年に軍の大刀洗飛行場が開設され、昭和14（1939）年には飛行場関連施設の強化と呼応して旧国鉄の甘木線が開通した。

昭和40（1965）年に大刀洗飛行場の跡地にキリンビールの工場が建設され、48（1973）年にブリヂストンタイヤ甘木工場が操業開始した。

3) 産業・社会

人口は平成14年3月現在、43,252人である。産業として、まず農業をみよめる。米、麦、畜産、果樹、野菜などで、平成12（2000）年に98億3000万円の粗生産額を示し、福岡県内3位となっている。工業は、キリンビールやブリヂストンタイヤのほか、いくつかの比較的大きな

* 立正大学地球環境科学部

保存事業は、保存、修景、防災設備などについて保存計画をたてて実施する（荻谷勇雅 1999. pp. 20-24）。

(3) 秋月における選定の経緯

秋月における伝統的建造物の保存は、秋月振興会が「保存と暮らしのまちづくり」で町並み保存を提言したことに始まる（1978年）。それに続いて翌年、甘木市は「伝統的建造物群保存対策調査」を行った。秋月振興会は町並み保存専門委員会を設置し、市は甘木市伝統的建造物群等推進委員会を設置して住民説明や先進地事例視察を開始した。

昭和63（1988）年、秋月中学校の新築の話が起こり、景観に配慮した秋月中学校新校舎が建設された。市は歴史的景観条例案を作成し、「まちなみ事務所」を開設し（1991年）、歴史的景観保存基本計画案を立案した。そして「秋月まちなみ保存」パンフレットで住民説明を行うとともに、武家屋敷や町家の修復を始めた。秋月振興会は町並み保存の条例化を求める決議を請願とし市に提出し、採択され（1996年）、甘木市歴史的景観条例が制定された（1997年）。それに従って伝統的建造物群保存地区が都市計画として決定され、翌年、国によって重要伝統的建造物群保存地区に選定された（甘木市教育委員会 1998. pp. 51, 52）。

4 秋月重要伝統的建造物群保存地区の現状

(1) 重要伝統的建造物群保存地区の選定・保存事業

秋月には前述のとおり、盆地の中央に、城跡とほぼ碁盤の目状の街路からなる城下町の遺構が残されている。その城下町の基本構造と構成要素に意義が認められ、旧城下町全体58.6haが重要伝統的建造物群保存地区として選定された（図2）。保存計画、保存物、助成措置等が、甘木市秋月伝統的建造物群保存地区保存計画（甘木市教育委員会 1998）によって以下のように決定された。

1) 保存物

伝統的な屋敷建築、町屋建築、寺社建築 前記と一体をなす伝統的な門、塀、石垣、石造物等（、は伝統的建築物）、歴史的風致の維持に寄与する樹木、庭園、生垣、農地、河川、水路、道路、枡形等（環境物件）

2) 助成措置 - 修理・修景・復旧に限度額の範囲内（8割程度）で補助

3) 規制 - 歴史的景観条例で、建築物や土地の大幅な新改築や変更を規制

4) 保存 - 家屋・寺社等76件、門・石積み等64件

(2) 現地調査による地区の概観

地区の中央を走る秋月街道沿いには伝統的建造物である町屋が、伝統的産業を維持しながら修理中或いはそのままで連担している。これに丁字に交差する通りである杉の馬場は桜並木になっており、通り沿いに城跡の石垣や武家屋敷が文化財として保存されている。大手門であった黒門は藩祖黒田長興を祀る垂裕神社の門として移築されている。残されている武家屋敷の数は多くない。

地区の南西部は全体が緩やかな南向きの傾斜地となっており、かつての武家屋敷の境界であった低い石垣が田畑の境界となって残され、緩やかな段々畑のなかに伝統的な民家が点在している。水と緑をシンボルとする町であり、傾斜を利用して側溝に清流を流し、必要に応じて邸内に通水している。小京都といわれるが、現在の京都のようなビルはない。

観光客はほとんど日帰りのため、宿泊施設は1軒しかない。観光客は減りつつあるが、年間50～60万人で推移している。

(3) 秋月振興会幹部の意見

現地調査のおり、秋月振興会の幹部の皆様からご意見をお聞きする機会を市に設定して頂いた。そこでいろいろな意見をお聞きしたが、要約すると以下ようになる。

心の底に、日本の心を残したいというロマンを追いいたい。藁葺きの家を残し、別な家を建てた人もいる。武家屋敷をもっと復元したい。参考にした他地域はあまり多くない。電線の地下化を国土交通省に申請している。観光客が減っているので、秋月の四季を通じての美しさを知ってもらおうとして、コスモスなど花いっぱい運動を進めている。秋月の人はプライドが高いと思う。

5 秋月重要伝統的建造物群保存地区におけるアンケート

(1) 現地調査の実施

2002年10月8日から11日の間、学生達による現地調査が行われた。当該地区を視察し、市の担当職員や地域の有識者から意見を聴取した。その後、重要伝統的建造物群保存地区内を担当地区を定めて秋月のまちなみアンケートを実施した。本章はアンケート結果についての報告である。



(2) アンケート調査実施

2002年10月10日、学生達がアンケート調査を行った。アンケートの目的は、住民意向の調査と現地調査の実習である。対象地域は重要伝統的建造物群保存地区内全域とし、方法は学生2人1組の訪問聞き取りによった。

回答者数は63名で、アンケート項目は付録1のとおりであり、回答結果は表1と表2に示す。

(3) アンケート調査の結果

1) 回答者

問1, 問2

今回は昼間の訪問調査のためか、女性が6対4で多い。年齢は60代が4分の1、70代が5分の1強、50代が5分の1、40代が5分の1弱で、30代、20代は10分の1以下である。職業は無職が4割で、商店経営が1割5分、個人事業主が1割5分弱、会社員が1割、その他若干ずつとなっている。世帯は、夫婦のみが4割弱、夫婦と子供は2割5分、2世帯夫婦が1割5分強、単身1割である。

女性が半分以上、高齢者が半分で、無職が多い、言い替えば、半数近くが、女性で無職の高齢者ということである。

2) 居住歴・居住意向と住宅・敷地

問3～問7

明治時代からの居住者は1割に過ぎず、戦前からの居住者が2割5分強である。戦後から昭和50年までの居住者が半数近く、それ以後が1割5分強である。将来とも住み続ける意思のある人は9割を超え、定住意識が強固である。秋月が住み易いかという設問に4分の3が肯定している。敷地も住宅も9割以上が自己所有である。住宅の建築年代は戦後が4割5分弱で、3割が昭和元年から終戦までで、それ以前の家はあまり多くない。なお9割が修理の予定をもっていない。

このことから、古くからの居住者が多く、家屋敷の自己所有が多く、定住意識が旺盛であることがわかる。

3) 保存地区について

問8～問15

居住地が重要伝統的建造物保存地区であり規制があることを、殆ど全部の回答者が承知している。同時に助成があることも9割が知っている。選定後の景観の変化について、2割が肯定的な意見を持ち、否定的な意見が2割5分と少し肯定を上回り、半数以上が変わらないという意見である。将来の景観については、保存すべきという意見が半数で、生活優先とその他が4分の1ずつであり、景観維持の意見がやや優勢とみてよさそうである。保存

地区の観光資源としての活用については、賛成が3割5分に対して、反対が4割強とやや多い。その理由として、「町に活気が出る」が半数近く、「伝統的な景観整備が進む」が2割、「城下町の良さを見てもらえる」、「商売の利益があがる」と続く。これからみて町の活性化を望む気持ちと、城下町を誇りに思う意識の並存であろうか。反対の理由は、8割以上が「静かな環境を壊されること」で、「観光客相手の店ができるのが困る」と「観光客が来ても益がない」が共に1割弱である。

保存地区に選定されてどのような変化が起こったかという問いに対しては、以下のように回答している。町内に観光客が流入し落ち着きがなくなったかという問いに対して、4割弱がそう思うと答え、6割弱がそう思わないと回答している。人情や風俗が悪くなったかという問いに対して、3割強が肯定し、6割5分弱が否定している。規制のため生活が困難になったかとの問いには、4分の1が困難化を訴え、4分の3弱が困難化は感じていない。市の財政が向上し住みよいまちづくりが進んでいるかについては、6割が認めておらず、認めているのは2割弱に過ぎない。地域が賑わい明るい町になったかという点についても、6割対3割弱でそうは感じない方が多い。雇用の増加については、僅が1割5分強のみが評価している。

保存地区の指定については、よく知れ渡っており、指定そのものは評価されているが、町の活性化に繋がるとの意見は少数に止まっている。

4) 誇りと愛着

問16

9割が、誇りと愛着を持っている。

5) まちづくりと振興についての要望

問17

1位は「道路、交通の整備」の2割で、2位は「老人、身障者の福祉の充実」の1割5分であり、3位は1割に達しない同率で「交通安全施設、防火施設の整備」と「治山、治水施設、緑化対策」である。

交通利便性の向上に対する要求が強いようである。

6) まとめ

アンケート対象者、すなわち昼間人口の多くは、地域に誇りと愛着を持って定住し、重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることを評価し、景観を保持することを望んでいることが明らかになった。

表1 秋月まちなみアンケート 1

選択肢	問1-1	問1-2	問1-3	問2	問3	問4	問5	問6	問7-1	問7-2	問8	問9
1	27	3	5	6	7	45	46	57	4	6	57	56
2	36	5	3	21	17	2	14	1	8	17	2	6
3		11	8	14	29	2	3	3	4	37		
4		13	2	9	7				18			
5		17	1	6	3				26			
6		14	7						1			
7			22									
8			6									
計	63	63	54	56	63	49	63	61	61	60	59	62

比率%

1	42.86	4.76	9.26	10.71	11.11	91.84	73.02	93.44	6.56	10.00	96.61	90.32
2	57.14	7.94	5.56	37.50	26.98	4.08	22.22	1.64	13.11	28.33	3.39	9.68
3		17.46	14.81	25.00	46.03	4.08	4.76	4.92	6.56	61.67		
4		20.63	3.70	16.07	11.11				29.51			
5		26.98	1.85	10.71	4.76				42.62			
6		22.22	12.96						1.64			
7			40.74									
8			11.11									
計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

表2 秋月まちなみアンケート 2

選択肢	問10	問11	問12	問13	問14	問15(1)	問15(2)	問15(3)	問15(4)	問15(5)	問15(6)	問16-1	問16-2	問17
1	5	31	22	11	20	23	21	15	11	17	10	56	57	30
2	7	15	27	5	2	36	42	45	38	38	45	6	5	10
3	33	17	14	3	2	3	3	2	13	7	7			10
4	14			4	0									4
5	1			2										4
6														1
7														20
8														8
9														0
10														1
11														0
12														4
13														1
14														5
15														5
16														4
17														27
計	60	63	63	25	24	62	66	62	62	62	62	62	62	134

比率%

1	8.33	49.21	34.92	44.00	83.33	37.10	31.82	24.19	17.74	27.42	16.13	90.32	91.94	22.39
2	11.67	23.81	42.86	20.00	8.33	58.06	63.64	72.58	61.29	61.29	72.58	9.68	8.06	7.46
3	55.00	26.98	22.22	12.00	8.33	4.84	4.55	3.23	20.97	11.29	11.29			7.46
4	23.33			16.00	0.00									2.99
5	1.67			8.00										2.99
6														0.75
7														14.93
8														5.97
9														0.00
10														0.75
11														0.00
12														2.99
13														0.75
14														3.73
15														3.73
16														2.99
17														20.15
計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

6 現在から将来に向けて

今回の調査から、秋月が、重要伝統的建造物群保存地区に選定され、伝統的景観の復元・保存が図られたことを含めて、昼間人口によるものとはいえ、住民の誇りや愛着の対象となっていることが明確化された。

高齢化と成熟経済による観光客の減少など問題もあり、歴史的町並み保存の意義で述べた、住民にとって大きな精神的価値や外部の人の心に与える感動のうち、後者による町おこしの可能性はそれほど期待できないように思われる。

将来の予測は容易ではないが、ベッドタウン化も選択肢の一つとしてありうるように考えられる。即ち歴史豊かな町に住み、最先端の産業の町に通勤するという生活スタイルも存在し得るのではなかろうか。

観光客の誘致に先立ち、若い住民の郷土愛の涵養が必要と思われる。観光客のための町ではなく、多くの住民が誇りと愛着を持って住む町を作っていくことが、息の長い町おこしになるのではなかろうか。

謝 辞

今回の秋月の現地調査において、多くの地元の方々のご協力を賜った。厚く御礼申し上げます。中でも、次の皆様には特別のご助力を頂いた。記して感謝の意を表したい。

甘木市教育委員会 葉山義幸文化課長

甘木市教育委員会文化課 内田俊和文化財係長

秋月公民館 石田勝憲館長

秋月振興会 多田豊会長及び幹部の皆様

甘木市総務部行政経営改革推進室 高良恵一主任主査

甘木市総務部企画課 執行康則主査

参考文献

甘木市教育委員会 (1998) : 甘木市秋月伝統的建造物群保存地区関係例規集.

大河直躬 (1997) : 「歴史的遺産の保存・活用とまちづくり」学芸出版社.

苅谷勇雅 (1999) : 歴史的建造物の保存制度の動向と歴史を活かしたまちづくりについて. 住宅, 48(5), 20 - 24.

The Actual Condition and the Problems of Akizuki District for a Group of Important Historic Buildings in Amagi City

Juichi CHITOSE

Faculty of Geo-environmental Science, Rissho University

付録 1

アンケート番号 ()

秋月のまちなみアンケート

アンケート担当者 _____

調査地区 _____ ()

問 1 あなた自身のことについてお知らせください。

1 - 1 性別 ()

1 男 2 女

1 - 2 年齢 ()

1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代 6 70代以上

1 - 3 職業 ()

1 会社員 2 公務員 3 商店経営 4 農林業 5 労務従事
6 個人事業主 7 無職 8 その他

問 2 家族構成及び家族数、現在の同居家族についてお知らせ下さい。 ()

1 単身 2 夫婦 3 夫婦と子供 4 2世帯夫婦 5 その他

問 3 現在のところに住むようになった時期はいつごろですか。 ()

1 明治以前 2 昭和20年以前 3 昭和21年～50年まで
4 昭和51年～平成9年まで 5 平成10年以降

問 4 これからも現在のところにお住まいになりますか。 ()

1 住み続ける 2 当分は住む 3 近いうちに出る

問 5 秋月は住みやすいところとおもいますか。

1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない ()

問 6 敷地と住宅の所有はどなたになっていますか。

1 所有地に持ち家 2 借地に持ち家 3 借家 ()

問 7 住宅について

7 1 建築年代 ()

1 明治以前 2 明治時代 3 大正時代 4 昭和元年～20年まで
5 昭和21～平成9年まで 6 平成10年以降

7 2 修理や工事の予定 ()

1 あるので近々やるつもり 2 あるが今すぐはやらない 3 ない

- 問 8 秋月は国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されているので、保存地区内で住宅や車庫、門などを新築したり取り壊したりするときに、市の許可が必要であることを知っていますか。 ()
1 知っている 2 知らなかった
- 問 9 保存地区内で住宅や車庫、門などを新築するとき形や地や材料などに規制を受ける反面、市の補助金が交付されることを知っていますか。 ()
1 知っている 2 知らなかった
- 問 10 保存地区に選定されてからのこの町の景観についてどう思いますか。 ()
1 かなり景観がよくなった 2 少し景観がよくなった
3 変わらない 4 少し景観が悪くなった 5 かなり景観が悪くなった
- 問 11 将来の保存地区の景観についてどう思いますか。 ()
1 歴史的な景観を維持したい 2 景観を考えるより生活優先の建物を建てたい
3 その他
- 問 12 保存地区を観光資源として活用することについてどうお考えですか ()
1 賛成である 2 反対である 3 どちらでもよい
- 問 13 問12で「賛成である」と答えた方のその理由は何ですか。 ()
1 町に活気がでる 2 伝統的な景観の整備が進む
3 商売の利益があがる 4 城下町の良さを見てもらえる
5 その他
- 問 14 問12で「反対である」と答えた方のその理由は何ですか。 ()
1 静かな環境が破壊される 2 観光客相手の店などが建つと困る
3 観光客が来ても何の益にもならない 4 その他
- 問 15 保存地区に選定されて秋月のまちに次のような変化があったと思いますか。
(1) 町内に観光客が流入し、まち全体の落ち着きがなくなった。 ()
1 そう思う 2 そう思わない 3 その他
(2) 人情や風俗が悪くなった。 ()
1 そう思う 2 そう思わない 3 その他
(3) 規制が厳しくなり、生活が困難になった。 ()
1 そう思う 2 そう思わない 3 その他
(4) 市の財政が豊かになり、住みよいまちづくりが進みつつある。 ()
1 そう思う 2 そう思わない 3 その他
(5) 地域がにぎわい、明るいまちになった。 ()
1 そう思う 2 そう思わない 3 その他
(6) 地元住民の働く場所がふえた。 ()
1 そう思う 2 そう思わない 3 その他

問 16 誇りと愛着について

16 - 1 秋月のまちを誇りに思いますか。

- 1 思う 2 思わない ()

16 - 2 秋月のまちに愛着を感じますか、

- 1 感じる 2 感じない ()

問 17 秋月のまちづくりと振興について今一番してほしい事業は何ですか。

(3つ選んで下さい)。

- 1 道路、交通の整備 2 交通安全施設、防火施設の整備
3 治山、治水施設、緑化対策 4 公園、遊園地、緑地の整備
5 公民館、コミュニティハウス等の整備 6 学校施設の整備充実
7 老人、身障者の福祉施設の充実 8 保健、医療施設の充実
9 農業、林業の振興 10 農産物加工品、土産品等の振興
11 観光レクリエーション施設の充実 12 民宿、宿泊施設の整備
13 商業の振興 14 地場産業の振興
15 城址、歴史資料館などの一層の整備 16 家屋等の保存修理 17 その他
() () ()

問 18 秋月をどんなまちにしたいと思いますか。(次ページに自由意見)

付録 2

甘木市秋月地区フィールドワーク参加者

引率教員	千歳 壽一	ティーチングアシスタント				佐藤 光洋
地理学科3年生	岩島 修平	高木 啓次	近本 博之	小澤 和	横山 隼人	
	南雲 桂介	岸本麻里子	清水 正彦	高尾 利幸	久保 義明	
	石田 雄大	白井 聡	栗原 諒太	加藤 春菜	岡部 貴哉	
	清水 大徳	荒木 真規	岡崎 学	今泉 尚人	柴崎 遼	